

2 中山さんは、本の読み方について考えるために、【A】と【B】の文章を読んでいます。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【A】

同じ本を二度と読まない人はいるでしょうが、歳をとると前に買ったことを忘れて同じ本を買ってしまうこともありますし、読み進むうちに既視感があつて、おかしいと思っていたら、前に一度読んだことのある本であることに気づくことがあります。

そんな時でも落胆する必要はありません。本を再読する時には、前に読んでいた時と違って同じ本でも違った読み方ができます。忘れたわけでなく、あえて同じ本を何度も読む人もいます。

同じ本でもいつも読むたびに新しい発見があります。ギリシアの哲学者であるヘラクレイトスが「同じ川には二度入れない」^(注1)といっています。

前に読んだ本でも初めて読むような気がするのは、何が書いてあったかを忘れてしまったからではありません。川に足をつける時、それが二度目であっても、川の流れは前と同じであるはずはありませんし、自分も前に足をつけた時とは違っているはずなので、「同じ川には二度入れない」のです。

本の場合は、たしかに書いてあることは同じなのですが、それでも自分は前に読んだ時とは違っているのです、同じ本でも同じように読むことはできません。

その上、前と今とは同じように読んでいるわけでもないのです。前に読んだ時には読み落としていたり、あるいは、あまり強い印象を残さなかった箇所があることに気がつきます。印刷されている文字は同じでも、前と同じ本を読んでいるのではないといっているくらいです。

以前より必ず成長しなければならないわけではありませんが、今の自分が前に読んだ時とは違うと感じられるというのも読書の楽しみの一つだと思います。

(注1) 岸見一郎『本をどう読むか』による。

【B】

ある作家の全集を読むのは非常にいいことだ。研究でもしようというのでなければ、そんなことは全く無駄事だと思われがちだが、決してそうではない。読書の楽しみの源泉にはいつも「文は人なり」^(注2)という言葉があるのだが、この言葉の深い意味を理解するのは、全集を読むのが、一番手っ取り早いしかも確実な方法なのである。

一流の作家なら誰でもいい、好きな作家でよい。あんまり多作の人は厄介^{やっかい}だから、手頃なのを一人選ばばよい。その人の全集を、日記や書簡^(注3)の類^{たぐい}に至るまで、隅から隅まで読んでみるのだ。

そうすると、一流と言われる人物は、どんなに色々なことを試み、いろいろなことを考えていたかが解^{わか}る。彼の代表作などと呼ばれているものが、彼の考えていたどんなに沢山の思想を犠牲にした結果、生^うれたものであるかが納得出来る。単純に考えていたその作家の姿などはこの人にこんな言葉があったのか、こんな思想があったのかという驚きで、滅茶^{めっちゃ}々々になつてしまふであろう。その作家の性格とか、個性とかいうものは、もはや表面のところに判然と見えるというようなものではなく、いよいよ奥の方の深い小暗いところに、手探りで捜さねばならぬもののように思われて来るだろう。

僕は、理窟^{りくつ}を述べるのではなく、経験^{けいけん}を話すのだが、そうして手探りをしていううちに、作者にめぐり会うのであって、誰かの紹介などによつて相手を知るのではない。こうして、小暗いところで、顔は定^{さだ}かにわからぬが、手はしっかりと握つたという具合な解り方をしてしまうと、その作家の傑作とか失敗作とかいうような区別も、別段大した意味を持たなくなる、と言うより、ほんの片言隻句^(注4)にも、その作家の人間全部が感じられるというようになる。

これが、「文は人なり」という言葉の真意だ。それは、文は眼^めの前にあり、人は奥の方にいる、という意味だ。

(小林秀雄「読書について」による。)

(注1) ヘラクレイトスⅡ生没年不詳。紀元前五百年ごろに活躍したギリシャの哲学者。

(注2) 「文は人なり」Ⅱ十八世紀にフランスの博物学者ビュフォンが演説の中で述べて広まった言葉。

(注3) 書簡Ⅱ手紙。

(注4) 片言隻句Ⅱわずかな言葉。

一 ―線部「落胆する」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 慌てる
- 2 恐れる
- 3 恥ずかしがる
- 4 がっかりする

二 【A】と【B】の文章に共通している表現の効果を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 主張に関わる言葉を引用することで、伝えたいことを印象付けている。
- 2 敬体でいいねいに述べることで、伝えたいことを身近に感じさせている。
- 3 問いかけを用いることで、伝えたいことに興味をもたせている。
- 4 冒頭の一文に結論を示すことで、伝えたいことを明確にしている。

三 中山さんは、【A】と【B】の文章で述べられていることを次のようにまとめました。次の【ア】、【イ】に入る言葉として最も適切なものを、次の1から4までのの中からそれぞれ一つ選びなさい。

読書の楽しみについて、【A】では【ア】ということが、【B】では【イ】ということが述べられている。

- 1 同じテーマの本を何冊も読むことで、ものの見方を広げる
- 2 一人の作家の代表作を選んで読むことで、その作家の特徴をつかむ
- 3 同じ本を再度読むことで、以前と違う自分に気付く
- 4 一人の作家の全集を隅から隅まで読むことで、その作家の性格や個性を知る

四 中山さんは、【A】や【B】の文章で述べられていることを参考にして、自分の本の読み方について考えました。あなたなら、

これからどのように本を読んでいきたいと考えますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 【A】か【B】、またはその両方の文章から、自分が着目したところを抜き出しなさい。

イ アを踏まえ、読書に関する経験や知識に触れながら、これからどのように本を読んでいきたいかを具体的に書きなさい。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

選んだ文章

←選んだ文章の番号を塗りつぶしなさい。

- ①【A】
- ②【B】
- ③両方

ア

--	--

イ

--	--	--	--	--	--